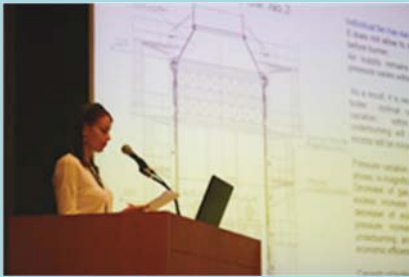


Twelfth International Conference on Flow Dynamics

October 27 – 29, 2015

Sendai International Center, Sendai, Japan



2015年10月27日から29日にかけて仙台国際センターにおいて、Twelfth International Conference on Flow Dynamics 「第12回流動ダイナミクスに関する国際会議」が開催され、19カ国から711名（外国人243名）の研究者・学生が集い、盛況に開催されました。いずれも第一線で活躍されている3名の著名な教授による基調講演を皮切りに、533件の発表があり、成功裏に本会議は終了致しました。

Plenary Lectures



“Highlights from a University / Government Collaboration

- Old Dominion University and NASA Langley Research Center”

Coline Britcher

(Old Dominion University, USA)

Chair: *Keisuke Asai*

(Tohoku University, Japan)



“Drop dynamics in complex fluids: Partial coalescence and self-assembly”

James J. Feng

(The University of British Columbia, Canada)

Chair: *Ching-Yao Chen*

(National Chiao Tung University, Taiwan)



“Challenges in Photovoltaics”

Noritaka Usami

(Nagoya University, Japan)

Chair: *Seiji Samukawa*

(Tohoku University, Japan)



教育への貢献

学生の教育活動の一環として国際会議聴講生を募集。聴講後にレポートの提出を義務付け学部学生を対象に、聴講生を募集しました。

(一部レポート抜粋)

「今回初めて大規模な国際会議に参加し、その発表の内容の高度さや扱われる内容の幅広さに感動した。プレゼンテーションが全編にわたり英語で行われるため、その内容を完全に理解することは難しかったが、そのことが今後英語を学習することへの意欲へとつながった。だが、こうした専門的な内容を理解し

たいとき、単純に英語力があれば良いわけではなく、やはりその分野の基礎的な知識が必要不可欠であると感じた。

今後自分が自身の研究内容を英語でプレゼンテーションする機会があったとき、その内容をしっかり英語で説明出来るようにするためには、英語力はもとより、研究内容についての深い理解が必要であると感じた。特に、先生方の質疑応答をみていると、私が見過ごしてしまっているような箇所を的確に質問されており、また回答する先生もどのような質問でもしっかりと回答されていて、そのことが自身の研究内容への理解の深さを物語っていると感じた。今回のICFDに限らず、流体研には外部から先生方が講演に来てくださる機会が多いので、そういった場に参加し最先端の研究に触れることで知識を深め、また場に慣れることで、自身のモチベーションの向上につなげていきたいと思う。」(東北大学 工学部 機械知能・航空工学科 4年 石本研究室 関田 健雄)